

平成31年2月期 第2四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

平成30年10月11日

上場会社名 株式会社カンセキ 上場取引所 東  
 コード番号 9903 URL http://www.kanseki.co.jp  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 大田垣 一郎  
 問合せ先責任者 (役職名) 経理部長 (氏名) 村山 和弘 (TEL) 028-659-3112  
 四半期報告書提出予定日 平成30年10月12日 配当支払開始予定日 平成30年11月5日  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 無  
 四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成31年2月期第2四半期の連結業績(平成30年3月1日～平成30年8月31日)

(1) 連結経営成績(累計) (%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
31年2月期第2四半期	16,950	2.0	856	23.3	778	34.4	442	22.0
30年2月期第2四半期	16,624	3.2	694	△5.4	579	△4.0	362	7.6

(注) 包括利益 31年2月期第2四半期 458百万円( 6.5%) 30年2月期第2四半期 430百万円( 40.1%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
31年2月期第2四半期	62.52	61.94
30年2月期第2四半期	50.30	49.94

(注) 平成29年9月1日付で、普通株式について2株を1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定し、1株当たり四半期純利益及び潜在株式調整後1株当たり四半期純利益を算定しております。

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
31年2月期第2四半期	26,935	6,728	24.8
30年2月期	26,253	6,305	23.9

(参考) 自己資本 31年2月期第2四半期 6,690百万円 30年2月期 6,273百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
30年2月期	—	2.00	—	4.00	—
31年2月期	—	5.00	—	—	—
31年2月期(予想)	—	—	—	5.00	10.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 有

(注) 平成30年2月期の期末配当金につきましては、平成29年5月25日開催の株主総会決議による平成29年9月1日付の株式併合(普通株式につき2株を1株に併合)後の株式を対象としております。また、平成30年2月期の年間配当金合計は、単純合算できないため、「—」と表示しております。

3. 平成31年2月期の連結業績予想(平成30年3月1日～平成31年2月28日)

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	32,600	1.0	970	1.1	820	5.6	427	2.5	60.31

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
 (連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)  
 新規 一社(社名) 、除外 一社(社名)

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数(普通株式)

① 期末発行済株式数(自己株式を含む)	31年2月期2Q	8,050,000株	30年2月期	8,050,000株
② 期末自己株式数	31年2月期2Q	981,233株	30年2月期	970,433株
③ 期中平均株式数(四半期累計)	31年2月期2Q	7,076,905株	30年2月期2Q	7,212,347株

(注) 平成29年9月1日付で、普通株式について2株を1株の割合で株式併合を行っております。前連結会計年度の期首に当該株式併合が行われたと仮定して、期末発行済株式数(自己株式を含む)、期末自己株式数及び期中平均株式数(四半期累計)を算定しております。

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

## ○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	4
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	5
(1) 四半期連結貸借対照表	5
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	7
四半期連結損益計算書	7
四半期連結包括利益計算書	8
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	9
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	10
(継続企業の前提に関する注記)	10
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	10
(セグメント情報等)	10

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第2四半期連結累計期間(平成30年3月1日から平成30年8月31日まで)における我が国経済は、引き続き緩やかながらも大手輸出企業を中心とした企業の収益改善や雇用環境に一定の改善が見られますが、記録的な猛暑や相次ぐ各地の自然災害等により、地域によっては復興復旧関連支出を余儀なくされるなどの想定外の経済環境も発生しており、先々の不安定感は拭えません。

このような経済情勢の中、当グループは地域のお客様の「生活の快適創造」に繋げる体制づくりを推進してまいりました。

営業面では、6月下旬の梅雨明け後の猛暑により、ホームセンターでは早期よりレジャー関連商材や日除け・暑さ対策品などの夏物季節品の販売が活発化致しましたが、一方で屋外作業を伴う植物・園芸関連商品は低調でした。また、WILD-1事業では、期初よりキャンプ関連用品を中心に盛況に推移し、売上高・売上総利益高共に前年同期を大きく上回っております。業務スーパー店舗及びオフハウス店舗を中心とした専門店事業においても堅実な業績を残しております。

経費面では、猛暑による冷房設備使用の増加により、水道光熱費の大幅増加が懸念されましたが、電力の契約先変更や旧型空調機の更新・LED照明の積極導入を更に進めたこともあり、前年実績以下に収まりました。

これらの結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は169億50百万円(前年同四半期比2.0%増)、営業利益は8億56百万円(前年同四半期比23.3%増)、経常利益は7億78百万円(前年同四半期比34.4%増)、親会社株主に帰属する四半期純利益は4億42百万円(前年同四半期比22.0%増)となり、増収増益となりました。

なお、当グループの報告セグメント事業別業績は次の通りです。

#### [ホームセンター事業]

ホームセンター事業では、例年に比べ早かった「梅雨明け」と想定外の「酷暑」や、販売促進強化策を同時期に実施した事により、レジャー用品やエアコン・扇風機などを始めとする暑さ対策商品が早期より販売に繋がり、近年に無い伸長を示しました。また、切花工房「花屋敷」等から供給の盆花等の切花についても安定した実績を上げております。一方で、記録的な猛暑により屋外作業を伴う植物・園芸用品は、前期実績を下回る結果となりました。また、比較的的好調を維持していたペット関連用品は既存店で前年並み、日用品の販売も同様に推移しました。

施設・費用面では、白河店(福島県白河市)と高萩店(茨城県高萩市)の2店を部分改装、また新鹿沼店(栃木県鹿沼市)の切花工房を新業態の「花屋敷」に改装した事により、関連費用が発生致しましたが、経費執行の効率化を進め、経費増加を抑制致しました。

これらの結果、営業収益は89億98百万円(前年同四半期比3.1%減)、セグメント利益は3億9百万円(前年同四半期比10.4%減)となりました。

#### [WILD-1事業]

WILD-1事業は、春先から引続き安定伸長を続けております。アウトドアレジャーの動向は力強く、猛暑にもかかわらず、主軸のキャンプ用品の他、フィッシング、ウェア類についても、リアル店舗・オンライン販売共にプライベート・ブランドを中心に活況を呈しております。各メディアでの取り上げも幅広くなり、新規ユーザーの増加は、好業績の要因ともなっております。

また、激しい自然現象による災害を目の当たりにする中、アウトドア用品が災害時にも対応できるツールとして再認識され、継続してキャンプ関連用品が好調に推移する要因ともなっております。

設備面では、京都宝ヶ池店(京都府京都市)の一部改装を行い、営業力の強化に繋げました。

これらの結果、営業収益は47億61百万円(前年同四半期比11.5%増)、セグメント利益は5億81百万円(前年同四半期比38.9%増)となりました。

## 〔専門店事業〕

専門店事業の内、業務スーパー店舗では、記録的な猛暑が氷・飲料水や塩分補給食材等の特需に繋がり、在庫管理力の向上が図られたことから、売上・利益面でも大きく伸長しております。オフハウス店舗では、同業他社や個人ネット取引が増加傾向にあり、商環境は厳しさを増しておりますが、店頭販促及び出張買取り強化策により想定内で推移しております。

これらの結果、営業収益は33億82百万円（前年同四半期比3.5%増）、セグメント利益は2億45百万円（前年同四半期比18.3%増）となりました。

## 〔店舗開発事業〕

店舗開発事業では、一部で賃貸契約満了を迎えた施設もあり、管理物件数は減少致しましたが、業績は計画通りに推移しております。

これらの結果、営業収益は2億34百万円（前年同四半期比20.0%減）、セグメント利益は93百万円（前年同四半期比11.7%増）となりました。

## (2) 財政状態に関する説明

## ① 資産、負債及び純資産の状況

当第2四半期連結会計期間末における総資産は、269億35百万円となり、前連結会計年度末に比べ6億81百万円の増加となりました。主な要因としては、現金及び預金の増加2億43百万円、クレジット売上増に伴う売掛金の増加1億19百万円及び商品の増加3億5百万円等によるものであります。

負債は、202億6百万円となり、前連結会計年度末に比べ2億58百万円の増加となりました。主な要因としては、1年内返済予定の長期借入金の減少2億91百万円、短期借入金の減少2億8百万円の減少要因に対して、支払手形及び買掛金の増加2億96百万円、電子記録債務の増加2億1百万円、未払法人税等の増加89百万円及び長期借入金の増加1億72百万円の増加要因によるものであります。

純資産は、67億28百万円となり、前連結会計年度末に比べ4億23百万円の増加となりました。主な要因としては、自己株式の取得13百万円及び配当金の支払28百万円の減少要因に対し、当第2四半期連結累計期間において親会社株主に帰属する四半期純利益4億42百万円を計上したことによるものであります。この結果、当第2四半期連結会計期間末における自己資本比率は24.8%となりました。

## ② キャッシュ・フローの状況の分析

当第2四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物（以下「資金」という）は、前連結会計年度末に比べ2億43百万円増加し、12億84百万円となりました。

## (営業活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において営業活動の結果得られた資金は、税金等調整前四半期純利益7億19百万円、減価償却費2億20百万円、たな卸資産の増加額3億5百万円、売上債権の増加額1億19百万円、仕入債務の増加額4億97百万円及び法人税等の支払額1億67百万円などにより、前年同四半期に比べ3億11百万円減少し7億79百万円となりました。

## (投資活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において投資活動の結果使用した資金は、有形固定資産の取得による支出1億12百万円、敷金及び保証金の回収による収入45百万円及び預り保証金の返還による支出39百万円などにより、前年同四半期に比べ64百万円増加し1億円となりました。

(財務活動によるキャッシュ・フロー)

当第2四半期連結累計期間において財務活動の結果使用した資金は、短期借入金の純減少額2億8百万円、長期借入れによる収入20億50百万円及び長期借入金の返済による支出21億68百万円などにより、前年同四半期に比べ1億90百万円増加し4億36百万円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

平成31年2月期の連結業績予想につきましては、平成30年4月13日に公表しました業績予想に変更はありません。

※ 上記予想は、現時点で入手可能な情報及び将来の業績に影響を与える不確実な要因に係る現時点における仮定を前提としております。実際の業績は、今後様々な要因によって異なる結果となる可能性があります。

## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	1,103,550	1,347,151
売掛金	263,154	382,499
商品	5,109,418	5,414,619
その他	423,463	466,677
貸倒引当金	△208	△136
流動資産合計	6,899,377	7,610,811
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	3,544,450	3,552,461
土地	12,275,176	12,275,176
その他(純額)	392,952	395,001
有形固定資産合計	16,212,578	16,222,639
無形固定資産		
投資その他の資産	653,782	605,264
敷金及び保証金	1,626,677	1,617,406
その他	861,327	879,467
貸倒引当金	△0	△0
投資その他の資産合計	2,488,004	2,496,873
固定資産合計	19,354,366	19,324,777
資産合計	26,253,743	26,935,589
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	2,532,911	2,828,924
電子記録債務	682,914	884,156
短期借入金	3,798,701	3,589,703
1年内返済予定の長期借入金	3,832,512	3,541,126
未払法人税等	229,166	319,066
ポイント引当金	262,303	269,635
その他	759,925	745,033
流動負債合計	12,098,433	12,177,645
固定負債		
長期借入金	6,622,841	6,795,436
役員退職慰労引当金	28,340	28,340
退職給付に係る負債	584,181	593,438
資産除去債務	141,679	142,369
長期預り敷金保証金	205,794	202,786
その他	267,016	266,861
固定負債合計	7,849,851	8,029,232
負債合計	19,948,285	20,206,877

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成30年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成30年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	1,926,000	1,926,000
資本剰余金	1,864,000	1,864,000
利益剰余金	2,604,666	3,018,822
自己株式	△482,425	△495,739
株主資本合計	5,912,241	6,313,083
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	362,139	377,562
退職給付に係る調整累計額	△965	△555
その他の包括利益累計額合計	361,174	377,006
新株予約権	32,041	38,621
純資産合計	6,305,457	6,728,711
負債純資産合計	26,253,743	26,935,589



## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
売上高	16,624,836	16,950,876
売上原価	11,798,745	11,953,746
売上総利益	4,826,090	4,997,129
営業収入	502,241	438,705
営業総利益	5,328,332	5,435,835
販売費及び一般管理費	4,634,114	4,579,726
営業利益	694,217	856,108
営業外収益		
受取利息	244	275
受取配当金	7,685	8,062
受取保険金	4,860	1,735
補助金収入	830	15,300
その他	2,637	4,184
営業外収益合計	16,257	29,558
営業外費用		
支払利息	123,314	106,340
その他	7,908	644
営業外費用合計	131,222	106,985
経常利益	579,252	778,682
特別利益		
固定資産売却益	—	9,143
投資有価証券売却益	9,999	—
補助金収入	26,236	—
特別利益合計	36,235	9,143
特別損失		
固定資産除売却損	8,774	23,727
固定資産圧縮損	26,236	—
賃貸借契約解約損	—	45,000
特別損失合計	35,010	68,727
税金等調整前四半期純利益	580,477	719,098
法人税、住民税及び事業税	188,759	272,212
法人税等調整額	28,961	4,411
法人税等合計	217,720	276,623
四半期純利益	362,757	442,474
親会社株主に帰属する四半期純利益	362,757	442,474

四半期連結包括利益計算書  
第2四半期連結累計期間

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
四半期純利益	362,757	442,474
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	67,685	15,422
退職給付に係る調整額	△189	409
その他の包括利益合計	67,496	15,832
四半期包括利益	430,254	458,306
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	430,254	458,306

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自平成29年3月1日 至平成29年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自平成30年3月1日 至平成30年8月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	580,477	719,098
減価償却費	225,247	220,229
賃貸借契約解約損益(△は益)	—	45,000
支払利息	123,314	106,340
固定資産除売却損益(△は益)	8,774	14,584
固定資産圧縮損	26,236	—
補助金収入	△27,066	△15,300
投資有価証券売却損益(△は益)	△9,999	—
たな卸資産の増減額(△は増加)	△219,951	△305,429
売上債権の増減額(△は増加)	△81,046	△119,344
仕入債務の増減額(△は減少)	567,536	497,254
未払消費税等の増減額(△は減少)	76,598	△33,278
その他	△27,459	△100,186
小計	1,242,660	1,028,967
利息及び配当金の受取額	7,930	8,338
利息の支払額	△122,048	△104,770
補助金の受取額	27,066	14,600
法人税等の支払額	△64,435	△167,492
営業活動によるキャッシュ・フロー	1,091,173	779,642
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有形固定資産の取得による支出	△189,841	△112,835
有形固定資産の売却による収入	100	21,227
無形固定資産の取得による支出	△355	△2,582
投資有価証券の売却による収入	10,000	—
敷金及び保証金の差入による支出	△23,366	△18,920
敷金及び保証金の回収による収入	296,323	45,178
預り保証金の返還による支出	△116,521	△39,097
その他	△11,835	6,628
投資活動によるキャッシュ・フロー	△35,496	△100,401
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
短期借入金の純増減額(△は減少)	△181,600	△208,998
長期借入れによる収入	2,250,000	2,050,000
長期借入金の返済による支出	△2,139,999	△2,168,791
自己株式の取得による支出	△76,788	△13,313
その他	△97,006	△95,033
財務活動によるキャッシュ・フロー	△245,393	△436,136
現金及び現金同等物に係る換算差額	△55	495
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	810,227	243,601
現金及び現金同等物の期首残高	882,809	1,041,038
現金及び現金同等物の四半期末残高	1,693,037	1,284,639

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

## I 前第2四半期連結累計期間(自平成29年3月1日至平成29年8月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ホームセン ター	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	9,284,307	4,270,275	3,267,493	292,423	17,114,500	12,577	17,127,077	—	17,127,077
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	6,534	6,534	29,400	35,934	△35,934	—
計	9,284,307	4,270,275	3,267,493	298,957	17,121,034	41,977	17,163,011	△35,934	17,127,077
セグメント利益	345,385	418,912	207,431	83,785	1,055,515	11,587	1,067,103	△372,886	694,217

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△372,886千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△372,886千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

## II 当第2四半期連結累計期間(自平成30年3月1日至平成30年8月31日)

報告セグメントごとの営業収益及び利益の金額に関する情報

(単位:千円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期連 結損益計 算書計上 額(注)3
	ホームセン ター	WILD-1	専門店	店舗開発	計				
営業収益									
外部顧客への営業収益	8,998,585	4,761,966	3,382,203	234,039	17,376,795	12,785	17,389,581	—	17,389,581
セグメント間の内部 営業収益又は振替高	—	—	—	6,534	6,534	29,400	35,934	△35,934	—
計	8,998,585	4,761,966	3,382,203	240,573	17,383,329	42,185	17,425,515	△35,934	17,389,581
セグメント利益	309,592	581,898	245,435	93,583	1,230,509	11,249	1,241,758	△385,650	856,108

(注)1 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業及び保険代理店事業等を含んでおります。

2 セグメント利益の調整額△385,650千円には、各報告セグメントに配分していない全社費用△385,650千円が含まれております。全社費用は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

3 セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。